

校種	中学校	学年	2 学年	内容	創 作
	題材名	自分の CM を作ろう			
	主な教材	いろいろな CM 音楽			

意欲的に取り組める創作活動を目指して

中 安 統

はじめに

今や音楽に興味のない生徒はいないであろう。聴いている音楽も多様化していて、演奏者の特徴や、曲の特徴などについて自分なりに分析したりしている生徒もいるし、作曲や編曲をしてみたい、バンドを組んで自作の曲を演奏してみたいなどと思っている生徒もいる。

創作は、音楽的な語彙の少ない生徒にとってはそうやさしいことではないかもしれないが、普段さまざまな音楽を聴いている生徒であっても、創造したメロディーを記符することができないため、そこでつまづいてしまうというのが取組を妨げる一番の原因になっているのではないかと私は思う。音楽の時間の創作活動では、その過程において、生徒に音楽の仕組みを理解させたり、楽譜の基本的なルールを覚えさせたり、記号の持つ意味をいっそうはっきりと意識づけたりするには効果的である。このように創作活動は音楽を総合的にとらえ、想像力・理解力・思考力・ソルフェージュ力を育成し、歌唱・器楽・鑑賞の能力を高めることのできる活動であると思う。人の作品を演奏するよりも自分の作った曲を演奏するほうが意欲的に取り組めるような気がする。記符することができるようになれば音楽へのかかわりかたがより深くなることと思う。創作活動という主体的な活動を通して、音楽の基礎的・基本的な内容の定着を図り、音楽性を高めていきたい。

実践の前に

前述した中にもあるように創作活動することより楽譜のルールを理解させる、ソルフェージュ力を育成するということも目的の中にあるので、実際には楽器を使い、音を確かめながら創作していき、それを演奏することができる、歌うことができるというように進んでいく。これらの過程が楽器の奏法を定着させたり、音程感を身につけさせたりする。コンピューターを使用すればすぐに楽譜どおりの音楽を聴くことができるが、そのような理由から私は、あえてコンピューターは使用しない。

創作活動としては、以前から「短い詩にメロディーをつけよう」「学級歌を作ろう」など行ってきたが、生徒は考えてばかりいてさっぱり進まないし長続きしない、教師は生徒の口ずさむメロディーを採譜するので手一杯になってしまうというありさまだった。いくら教師ががんばっても長続きしないものや、いくら生徒ががんばって作品を仕上げても「もうこんな作業はやりたくない。」となってしまうような学習の展開であっては音楽の時間嫌いの生徒を増やすだけである。生徒があまり抵抗なくスムーズに入れるような活動の過程を考えなければならないと思う。

創作活動ステップ2

第2学年 A組

音楽科学習指導案

指導者 中安 統

1 題材名 自分のCMを作ろう

2 題材設定の理由

CM音楽は、商品名や商品の内容を印象付けることを目的としている。生徒は日ごろから、いわゆる古今の名曲を含む多種多様なCM音楽と接しており、これらのごく短い旋律を耳にただけで、反射的に商品名を答えられるほどである。そこで、これらの音楽が持つキャッチフレーズ的な面に気付かせるとともに、そのような特色を生かし、自分自身をイメージする短い旋律を作らせ、自分のためのCM音楽として表現させようとするのが、この題材のねらいである。

旋律を作らせるには、詞・音階・拍子・リズム・速度など、旋律を作るための知識や理解力が必要であるが、表現のためには読譜や記譜も大切である。生徒一人一人の個性や音楽的な表現意欲に基づき、感覚的に模倣することを中心に旋律を作りやすい手だてを考え、読譜に対する興味・関心を助長していきたい。

短い旋律作りを通し、読譜が必要となるような場面を設定し、記譜することや発表することを経験させ、さらに、音楽の諸要素とその結びつきの理解へと、学習が発展していくことをねらいとする

3 目標

- (1) 身近な題材を手がかりにして、自己表現する態度を養う。
- (2) 読譜に対する興味・関心をもたせる。
- (3) 短い旋律を作り、記譜したり表現したりさせ、読譜の力を伸ばす。

4 指導計画 総時数 2時間 本時 1 / 2

時数	学習のねらい	主な学習活動	評価の規準	十分満足できると判断する視点	努力を要する生徒への手だて
1	・短い旋律を作り、五線紙に記譜することができる。	・いろいろなCMの音楽を聴き、その曲の雰囲気をつかむ。 ・自分を紹介する短い旋律を作り、五線紙に記譜する。	・CM音楽のよさや、ねらいに気付くことができる。 〔鑑賞の能力〕 ・読譜に対する興味・関心をもつことができる。 〔関心・意欲・態度〕	CM音楽を口ずさんだり、リコーダーなどで奏しようとしている。	CM音楽を楽器で奏してみせ、感じ取りやすくする。
			・自分で考えた旋律を記譜することができる。 〔表現の技能〕	楽器などを使用して、記譜している。	生徒が考えた旋律を聴取してあげる。
2	・自分の作った曲を表現することができる。	・第1次での五線紙をもとに、リコーダーや歌唱で表現し、各個人で発表する。	・自分で記譜したとおりに表現することができる。 〔表現の工夫〕	曲の雰囲気合った表現をしている。	いっしょに練習して、意欲的に取り組ませる。
			・他の人の発表をしっかりと聴くことができる。 〔鑑賞の能力〕	他の人の曲のよさを聴き取るようとしている。	自分の作った旋律とどのように違うか考えさせる。

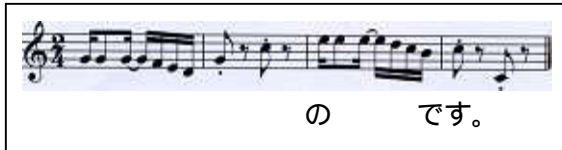
5 本時の計画

(1) ねらい

CM 音楽のよさや、ねらいに気付くことができる。

読譜や記譜に興味・関心をもつことができる。

(2) 学習過程

過程	学習活動	教師の支援	評価の観点	資料
導入 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「きょうの歌」を歌う。(当番の生徒が歌集から選ぶ) ・学習のめあてを確認する。 ・いろいろな CM 音楽を聴く。(初めの部分) ビゼー：闘牛士の歌(ホンダ) ビバルディ：春(MICADO) メンデルスゾーン：春の歌(養命酒) サティ：ジユトゥヴ(資生堂)ほか ・CM 音楽の一部の旋律を口ずさんだり、リコーダーなどでまねしたりしてみる。 ・自分を紹介する短い旋律(CM)を作る。リコーダー、ピアノ、キーボードなどを使い、五線紙に記譜していく。 ・記譜ができれば、発表の準備、練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に声を出すよう言葉をかける。 ・学習のめあてをしっかりと理解させる。 ・商品名などにばかり気をとらわれないよう注意する。 ・曲の一部の楽譜を提示する。ピアノでその旋律を弾いて聴かせる。 ・難儀している生徒には記譜の仕方についてアドバイスする。 ・発表の仕方について指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な声量で歌うことができる。 ・めあてが何であるか理解することができる。 ・それぞれの曲の雰囲気をつかむことができる。 ・自分の考えた旋律を五線紙に記譜することができる。 ・自分で記譜した旋律を、意欲的に練習することができる。 	<p>歌集</p> <p>CD、テープ、ビデオ</p> <p>リコーダー</p> <p>ピアノ</p> <p>キーボード</p> <p>五線紙</p>
次時の予告	<p>発表の仕方</p>  <p>このような感じで。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の進め方について説明する。 		

